

座長コメント

1. 本日の主な議論事項

(1) トンネル掘削工法とリスクへの対応について

○ トンネル湧水を大井川に戻すにあたり、想定されるトンネル湧水量や突発湧水等が不確実性を伴うことから、地盤状況の差異、気象や災害、設備故障等のリスク要因と、水量や水質に対するリスク対策の考え方について議論した。

○ このうち山梨県境付近の断層帯のトンネル掘削については、JR東海により複数の工法について施工上の安全性等の観点からの評価が行われ、事業主体としては静岡県側からの掘削は難しいことが示された。

○ 一方、これに伴う工事期間中のトンネル湧水の県外流出に対しては、

- ・ 静岡県側の坑内からの高速長尺先進ボーリングでの揚水等による流出量の軽減策
- ・ 流出量の全量を大井川に戻す代替措置として、先進坑貫通後に県外流出量と同量の山梨県内のトンネル湧水を時間をかけて大井川に戻す方策

が提示され、選択肢としてあり得ることを有識者会議として確認した。

※ これらの方策の実施に関しては、今後、JR東海が静岡県や流域市町等との間で協議されるものとする。

(2) 水循環の概念図について

○ JR東海から、トンネル掘削完了時及び掘削完了後恒常時の概念図が水循環量と合わせて提示された。今後、

【第9回 リニア中央新幹線静岡工区 有識者会議】

更なる修正を加えつつ、利水者等に対して丁寧に説明をしていくことをJR東海に対して指示した。

(3) 工事期間中における山梨県側へのトンネル湧水流出量の評価等について

○ 年変動の影響等を踏まえた河川流量の試算結果が示された。この結果は、前回会議で平均的にとして示された両モデルによる予測結果と同様の傾向になっていることを有識者会議として確認した。

○ なお、このような傾向が確認されるのは、静岡工区内に発生するトンネル湧水によって、河川流量の減少が補われていることに留意が必要である。

2. 次回以降の議論事項

(1) リスク対策の考え方等については、リスク評価の指標などについて、本日の会議での指摘を踏まえ、更なる適正化を図り、次回会議で示すようJR東海に対して指示した。

(2) また、前回の座長コメントにおいて、これまでの有識者会議で議論してきた事項を総括した上で利水者等に対してわかりやすい説明になるようにとの指示を受け、本日事務局より提示された「リニア中央新幹線静岡工区有識者会議におけるこれまでの議論について（素案）」は、本日の議論や各委員からの指摘を踏まえて適宜更新し、次回改めて提示するよう事務局に指示した。

(3) なお、今後、とりまとめるにあたっては、静岡県からの提案書の指摘も念頭に置きつつ、引き続き、科学的・工学的な観点から整理する。